

情報学から見た米国の 国家健康情報基盤（NHII）の動向

諏訪部直子¹⁾ 裏田和夫²⁾ 野添篤毅³⁾ 酒井由紀子⁴⁾

1)杏林大学医学図書館 2)東京慈恵会医科大学環境保健医学講座

3)愛知淑徳大学文学研究科 4)慶應義塾大学信濃町メディアセンター

1. はじめに

米国では、医療の安全性と質を高め、効率を改善するために、NHII(National Health Information Infrastructure)という国家保健情報基盤の構築が、政府の調整のもとに進められている。これは医療事故による死亡が多い、有効な研究結果がすぐに診療に取りこまれていない、医療の質が一定していない、重複検査による無駄が多い、新技術導入によってコストが増加している、といった医療における問題を解決するための対策である。

2. 経緯

米国医学研究所(Institute of Medicine, IOM)は2000年、「人は誰でも間違える(To err is human)」という報告書を発表した。その中で医療ミスによる死亡が全米の死因の第8位で、その数は交通事故よりも多いということが報告され話題となった。そして国民が安全で質の高い医療を受けられるようにするには、医療提供者と消費者が必要な医療情報にいつでもどこでもアクセスできる環境と仕組みを整えることが必須であるという結論に達した。そのような流れの中で2001年に人口動態保健統計委員会(National Committee on Vital and Health Statistics, NCVHS)によってNHIIの構築が提言された。そして2004年の大統領令により、全米保健医療情報調整局(Office of the National Coordinator for Health Information Technology, ONCHIT)が設立された。

3. NHII の概念

- 相互運用性のあるシステム同士の包括的知識ベースネットワーク
- 国家集中型ではなく地域分散型
- 国家主導事業ではあるが、国は調整役として機能する
- 民間と行政が協調して構築

4. 情報専門家の役割

安全で効率的な医療を提供するためには、最新のエビデンスを診療に取り込む仕組みが必要である。そのためにはバランスよく重要なエビデンスをすくいとり、それを日常的に診療支援システムに反映させることのできる臨床情報専門家の活躍が期待される。